

## 安全データシート (SDS)

作成	平成 24 年 6 月 21 日
改訂	平成 27 年 10 月 27 日

## 1. 化学品等及び会社情報

## 製品

製品の名称 シゲマツ アルコール除菌スプレー<ラベル巻>  
 製品のコード A0438340000-10

## 供給者情報

会社名 エア・ウォーター・ゾル株式会社  
 住所 東京都千代田区神田東松下町 47 番 1 号 (本社所在地)  
 日本マツパワビル 7 階 〒101-0042

担当部署 研究開発部  
 電話番号 03-5207-3202 (本社代表) 0299-48-4402 (研究開発部代表)  
 F A X 番号 03-5207-3209 (本社) 0299-48-4401 (研究開発部)  
 緊急電話番号 0299-48-4402 (研究開発部)

推奨用途及び使用上の制限：家庭用品（除菌スプレー）

## 2. 危険有害性の要約

## 重要危険有害性及び影響

## 特有の危険有害性

## GHS 分類

## 物理化学的危険性

エアゾール 区分 2

## 健康に対する有害性

急性毒性(経口) 分類できない  
 急性毒性(経皮) 分類できない  
 急性毒性(吸入：ガス) 分類対象外  
 急性毒性(吸入：蒸気) 分類できない  
 急性毒性(吸入：粉塵/ミスト) 分類できない  
 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 区分外  
 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分 2B  
 呼吸器感作性 分類できない  
 皮膚感作性 分類できない  
 生殖細胞変異原性 区分 1B  
 発がん性 分類できない  
 生殖毒性 区分 1A  
 生殖毒性(授乳に対する又は授乳を介した影響) 分類できない  
 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分 3 (気道刺激性、麻酔作用)  
 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分 1 (肝臓)  
 区分 2 (中枢神経系)

吸引性呼吸器有害性 分類対象外

## 環境に対する有害性

水生環境有害性(急性) 分類できない  
 水生環境有害性(長期間) 分類できない  
 オゾン層への有害性 分類できない

\* 記載がないものは分類対象外又は分類できない

## GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

可燃性又は引火性の高いエアゾール  
 高圧容器：熱すると破裂のおそれ  
 眼刺激  
 呼吸器への刺激のおそれ  
 眠気又はめまいのおそれ  
 遺伝性疾患のおそれ  
 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ  
 長期にわたる又は反復ばく露による肝臓の障害  
 長期にわたる又は反復ばく露による中枢神経系の障害のおそれ

注意書き

[安全対策]

使用前に取扱説明書を入手すること。  
 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。  
 裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。  
 使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。  
 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。  
 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。  
 取扱い後はよく洗うこと。  
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。  
 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

[応急処置]

火災の場合には、消火に泡、噴霧水、炭酸ガスを使用すること。  
 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
 ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診断/手当を受けること。  
 気分が悪いときは、医師に連絡すること。

[保管(貯蔵)]

気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。  
 目の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。  
 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。  
 施錠して保管すること。

[廃棄]

日光から遮断し、40℃以上の温度にばく露しないこと。  
 内容物/容器を各都道府県の規則に従って、専門の廃棄物処理業者に廃棄を委託する。

GHS 分類に該当しない危険有害性

高圧ガス製品のため、加熱、衝撃等により破裂する危険がある。  
 高温による内圧上昇により破裂の恐れがある。  
 引火しやすい液体、蒸気は空気と一定量混合すると爆発性混合ガスとなる。  
 アルコールは工業的に比較的無害の溶剤と見なされているが、蒸気を吸入すると麻酔剤として働き、繰返しさらされた場合、粘膜への刺激、めまい、感覚鈍麻、頭痛等を起こす。

3. 組成及び成分情報（混合物・危険有害性物質を対象）

化学物質・混合物の区別：混合物

組成及び成分情報

成分名 (別名)	CAS No.	含有濃度 (質量%)	化学式又は 構造式	官報告示整理番号		PRTR 法
				化審法	安衛法	
エタノール	64-17-5	70~80	C <sub>2</sub> H <sub>6</sub> O	2-202	-	対象外
水	7732-18-5	15~25	H <sub>2</sub> O	-	-	対象外
二酸化炭素	124-38-9	1.0~5.0	CO <sub>2</sub>	1-169	-	対象外

4. 応急措置

ばく露経路による応急措置

以下のいずれの場合も医師の手当てを受けること。

眼に入った場合	: 清浄な水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当を受けること。
皮膚に付着した場合	: 付着物を布にて素早く拭き取る。 多量の水と石鹸(又は皮膚用の洗剤)を使用して十分に洗い落とす。 溶剤、シンナーは使用しない。 直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。 また溶剤が全身にかかった場合は、流水又はシャワー等で十分に洗い流す。 外観に変化がみられたり、痛みがある場合には医師の手当てを受けること。
吸入した場合	: 蒸気、ガス等を大量に吸い込んだ場合には、被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、暖かく安静にする。呼吸が不規則か止まっている場合には人工呼吸を行う。 呼吸しやすい姿勢で休息させること。 蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所で安静にし、医師の手当てを受けること。
飲み込んだ場合	: 誤って飲み込んだ場合には直ちに吐き出し、水で口の中を洗浄後、コップ数杯の清水を飲ませ、希釈し、可能であれば喉に指をのどに差し込んで吐き出させ、直ちに医師の診断を受ける。 自然に嘔吐が起きた場合、気道への吸入が起きないように身体を傾斜させる。 嘔吐物は飲み込ませないこと。 被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。 医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。
予想される急性症状及び 遅発性症状の最も重要な 徴候症状	: 眼刺激 呼吸器への刺激のおそれ 眠気又はめまいのおそれ 遺伝性疾患のおそれ 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ 長期にわたる又は反復ばく露による肝臓の障害 長期にわたる又は反復ばく露による中枢神経系の障害のおそれ
応急措置をする者の保護	: 救助者は、状況に応じて適切な保護具(有機溶剤用の防毒マスク等)を着用する。 火気及び着火源に注意する。
医師に対する 特別な注意事項	: 情報なし

5. 火災時の措置

消火剤	:泡、散水又は噴霧水、炭酸ガス
使ってはならない消火剤	:棒状注水
特有の危険有害性	:火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがある。 燃えやすい、熱、火花、火炎で容易に発火する。 火災によって刺激性、毒性又は腐食性のガスを発生するおそれがある。 引火性の高い液体及び蒸気。
特有の消火方法	:燃えやすい。熱、火花、火炎で容易に発火する。 直ちに消火器等で消火する。 指定の消火器を使用すること。 可燃性の物を周囲から素早く取り除くこと。 可能であれば、エアゾール容器を火元から遠ざける。 移動不可能な場合は容器及び周囲に散水して冷却する。 速やかに避難し、関係者以外は立ち入り禁止とする。 火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがあるので、消火活動には距離を十分に取り、高温にさらされる製品容器には水等をかけて冷却する。 消火活動は十分距離をとって、風上から行う。 有毒なガス(CO、NOx等)の吸入を避ける。 消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行う者の保護	:消火者は必ず適切な保護具(耐熱着衣、保護眼鏡等)を着用し、空気呼吸器等を装備する。消火活動は十分距離をとって、風上から行う。

#### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置	:ばく露防止の為、作業の際には適切な保護具を着用する。 健康に有害である。急性又は慢性のリスクがある。 眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。 密閉された場所に入るときは換気する。 漏れ発生時(噴出時)には風上より処置を行うようにし、容器の漏出部は上向きにし、完全にガスを噴出させてから処置をする。 付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除き、風下の人を避難させ、関係者以外の立ち入りを禁止する。 着火した場合に備えて適切な消火器を準備する。 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしないこと。 引火性が高い蒸気。着火源を取り除く-禁煙
環境に対する注意事項	:河川等に排出され、環境への影響を起さないように注意すること。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 必要であれば、関係省官庁等へ速やかに連絡する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	:乾燥砂等の不燃性のものに吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収し、後で処理する。(吸収したものを集める際には清潔な帯電防止工具を用いる) 衝撃・静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。 蒸気発生が多い場合は噴霧注水で蒸気発生を抑制する。 付着物、廃棄物などは関係法規に従い処理すること。
二次災害の防止策	:付近の着火源となるものを速やかに取除くとともに消火剤を準備する。(エタノールは浸透性及び揮発性がある。) 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。 火花を発生しない工具を使用する。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

#### 7. 取扱い及び保管上の注意(関連法規に準拠して作業すること)

取扱い 技術的対策	:静電気対策のため、装置等は接地し、電機機器類は防爆型(安全増型)を使用する。
--------------	---

局所排気・全体換気	静電気対策を行い、作業衣、作業靴等は通電性の物を使用する。取り扱う場所の近くに、洗眼や身体を洗浄できる設備を設置する 工具は火花防止型の物を使用する。 換気のよい場所で取り扱う。 取り扱う場合は、局所排気内、又は全体換気のある場所で取り扱うこと。密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業すること。
安全取扱注意事項	すべての安全注意を読み、理解するまで取扱わないこと。 使用時には、使用者にかからないように風の流れを背後から受けるようにすること。 周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。-禁煙 火災に向かって噴射してはならない。 温度が高くなる場所に置くと、容器が破裂する恐れがある。 ミストを吸入しない。 接触、吸収又は飲み込まないこと。 ばく露防止の為、保護具を着用して作業を行う。 休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。 取り扱い後は手洗い等を十分に行い、衣服に付着した場合は着替える。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の取扱いをしてはならない。 取り扱う場所を常に整理整頓し、その場所に可燃性のもの、または酸化性のものを置かない。 この製品を取り扱う際に、飲食又は喫煙をしないこと。 混触禁止物質と接触しないように注意する。 環境へ放出を避けること。
接触回避 衛生対策	「10. 安定性及び反応性」を参照 取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。
保管 技術的対策 混触禁止物質 保管条件	静電気放電に対する予防措置を講ずること。 「10. 安定性及び反応性」を参照 幼児の手の届かない所に置くこと。 直射日光を避け、通風の良い所に保管する。 缶が錆びて内容物が漏出、又は噴出する恐れがある為、水回り等の湿気の高い所での保管は避けること。 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。-禁煙 40℃以上になる所には置かないこと。 混触禁止物質と接触並びに同一場所での保管を避ける。 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。 その他、消防法、労働安全衛生法等の法令に定めることに従う。
容器包装材料	高压ガス保安法等の法令で規定されている容器を使用する。 容器は、溶接、加熱、穴あけ又は切断しない。爆発を伴って残留物が発火する事がある。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策

- : 取扱い設備は防爆型を使用する。
- 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- 排気装置を付けて、蒸気が滞留しないようにする。
- 扱い場所の近くには、洗眼及び身体洗浄の為の設備、機器又は局所排気装置を使用し、高温、発火源となるものが置かれられないような設備とすること。

屋内作業の場合は、作業者が直接ばく露されない設備とするか、局所排気装置等により作業者がばく露から避けられるような設備とする。  
タンク内部等の密閉場所で作業する場合には、密閉場所の底部まで十分に換気できる装置を取り付ける。

許容濃度 (ばく露限界値、生物学的指標)

成分名	管理濃度 (安衛法)	許容濃度		
		日本産衛学会	ACGIH(TLV-TWA)	ACGIH(TLV-STEL)
エタノール	設定されていない	設定されていない	1,000ppm 1,880mg/m <sup>3</sup>	情報なし
二酸化炭素	設定されていない	5,000ppm	5,000ppm	30,000ppm

※安全衛生情報センター記載データに基づく。

※許容濃度が設定されていないものは省略している。

二酸化炭素 NIOSH (米国国立労働安全衛生研究所) IDHL : 40,000ppm (脱出限界許容濃度)

TWA (Time Weighted Average) ; 通常 8 時間労働又は 40 時間週労働にわたって時間平均値を求めた許容しえるばく露濃度

STEL (Short Term Exposure Limit)

; 労働者が短時間の間に連続的にばく露した時、刺激や慢性又は不可逆的な臓器障害を受けずにすむ濃度。  
(一般的には 15 分間)

IDHL (Immediately Dangerous to Life and Health) ; 主として人のデータを元に、30 分以内に脱出不能な状態、あるいは、不可逆的な健康障害をきたすことなく脱出できる限界濃度として、NIOSH と OSHA が提案している値。この濃度を超す場合は完全な呼吸用保護具を使用する。

保護具

呼吸器用保護具

手の保護具

眼の保護具

皮膚及び身体の保護具

適切な衛生対策

必要に応じて着用する。

有機ガス用防毒マスク、防塵マスク、(密閉された場所では) 送気マスク

保護手袋(耐溶剤性)。

保護眼鏡(ゴーグル型、側板付等)、保護面。

帯電防止の保護衣、安全靴、前掛け等(耐溶剤性)

保護具は清潔で有効なものを使用する。

作業中は飲食、喫煙をしない。

取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理化学的状態	内溶液	噴射剤(二酸化炭素)
	液体	ガス状
外観	無色透明	気体: 無色、無臭、水分と作用して弱い酸味と刺激臭を呈す 液体: 無色透明 固体: 半透明、乳白色
臭い	特有の芳香	無臭
臭いの閾値	データなし	データなし
pH	データなし	3.7 (25°C, 0.1013MPa, 飽和水)
融点・凝固点	データなし	-56.6°C (三重点, 0.518MPa abs)
沸点、初留点及び沸点範囲	78.32°C (101.325KPa エタノールとして)	-78.5°C (昇華点)
引火点	13°C (エタノールとして)	なし (不燃性)
蒸発速度	データなし	データなし
燃焼性	データなし	なし (不燃性)
爆発範囲の上限・下	3.3vol%~19.0vol%	なし (不燃性)

限	(空气中 エタノールとして)	
蒸気圧	データなし	1.967MPa abs (-20°C) 3.485MPa abs (0°C) 5.733MPa abs (20°C)
蒸気密度	データなし	1.977kg/m <sup>3</sup> (0°C, 0.1013MPa)
比重	0.85 (20°C)	液体密度: 1.030kg/L (-20°C, 1.967MPa)
溶解度	水、エーテルに溶解	1.713 l CO <sub>2</sub> /L H <sub>2</sub> O (0°C, 0.1013MPa) 1.194 l CO <sub>2</sub> /L H <sub>2</sub> O (10°C, 0.1013MPa) 0.878 l CO <sub>2</sub> /L H <sub>2</sub> O (20°C, 0.1013MPa)
n-オクタノール/水分配係数	log Pow -0.30 (エタノールとして)	log Pow 0.83
自然発火温度	439°C (エタノールとして)	なし (不燃性)
分解温度	データなし	データなし
粘度	データなし	データなし
その他	データなし	臨界温度: 31.1°C 臨界圧力: 7.382MPa abs 固体密度: 1.566kg/L (-80°C)

着火試験結果: 55cm

10. 安定性及び反応性 (製品として)

反応性及び化学的安定性	40°C以上になると破裂の恐れがある。 常用温度で缶内圧は約 0.59MPa。 静電気が発生すると引火爆発の危険性がある。
危険有害反応可能性	高温の表面、火花または裸火により発火する。 高压ガスが入っている。加熱、衝撃等により破裂する危険がある。 二酸化炭素は水との共存により酸性を呈し、鋼材を腐食する。更に酸素との共存や高压下では腐食が進む 硝酸、硝酸銀、硝酸水銀、過塩素酸マグネシウムなどの強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。ある種のプラスチック、ゴム、被膜剤を侵す。
避けるべき条件	高温多湿な場所での保管及び火気(火炎、火花等着火源)の近くでの使用。 衝突を避ける。 直射日光を避ける。 混触危険物質との接触を避ける。 静電気との接触
避けるべき材料	データなし
混触危険物質	強酸化剤、次亜塩素酸カルシウム、アンモニア、水、酸素
危険有害な分解生成物	燃焼等により有害なガス(一酸化炭素、二酸化炭素等)を発生する。

11. 有害性情報 (内容液について。人についての症例、疫学的情報を含む)

急性毒性(経口)	: 既知の成分がすべて同一の分類区分のため、区分外に該当。 毒性未知成分が 24%以上なので、区分外から分類できないに変更。
急性毒性(経皮)	: 既知の成分がすべて同一の分類区分のため、区分外に該当。 毒性未知成分が 24%以上なので、区分外から分類できないに変更。
急性毒性(吸入:ガス)	: GHS 定義による気体ではない。

急性毒性(吸入:蒸気) :急性毒性(吸入):蒸気:ppm での計算  
 既知の成分がすべて同一の分類区分のため、区分外に該当。  
 毒性未知成分が24%以上なので、区分外から分類できないに変更。  
 急性毒性(吸入):蒸気:mg/l での計算  
 既知の成分がすべて同一の分類区分のため、区分外に該当。  
 毒性未知成分が24%以上なので、区分外から分類できないに変更。

急性毒性(吸入:粉塵/ミス ト) :データ不足のため分類できない。

皮膚腐食性及び皮膚刺激 :加成方式が適用できる成分からの判定:危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分外に該当。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 :加成方式が適用できる成分からの判定:既知の成分がすべて区分2のため、区分2Bに該当。

呼吸器感作性 :データ不足のため分類できない。

皮膚感作性 :データ不足のため分類できない。

生殖細胞変異原性 :該当成分が $\geq 0.1\%$ のため、区分1Bに該当。

発がん性 :データ不足のため分類できない。

生殖毒性 :該当成分が $\geq 0.3\%$ のため、区分1Aに該当。

特定標的臓器毒性(単回ばく露) :該当成分が $\geq 20\%$ のため、区分3(気道刺激性、麻酔作用)に該当。

特定標的臓器毒性(反復ばく露) :該当成分が $\geq 10\%$ のため、区分2(中枢神経系)に該当。  
 該当成分が $\geq 10\%$ のため、区分1(肝臓)に該当。

吸引性呼吸器有害性 :GHS定義による固体、液体ではない。

その他の情報 :

二酸化炭素

急性毒性(吸入) 空気中の二酸化炭素濃度により、人体に対して次のような影響を及ぼす。

二酸化炭素濃度(%)	人体に対する影響(通常の酸素濃度における)
0.04	正常空気
0.5 (TLV・TWA)	長期安全限界
1.5	作業性及び基礎的生理機能に影響を及ぼさずに長時間に亘って耐えることができるが、カルシウム・リン代謝に影響の出る場合がある。
2.0	呼吸が深くなり、1回の呼吸量が30%増加。
3.0 (TLV・STEL)	作業性低下、生理機能の変化が体重、血圧、心拍数の変化として現れる。
4.0	呼吸が更に深くなり、呼吸数が増加、軽度の喘ぎ状態になる。相当な不快感。
5.0	呼吸が極度に困難になる、重度の喘ぎ、多くの人々が殆ど耐えられない状態になり、吐き気の出現する場合がある。30分のばく露で中毒症状。
7~9	許容限界、激しい喘ぎ、約15分で意識不明。
10~11	調整機能不能、約10分で意識不明。
15~20	更に重い症状を示す、1時間では致命的ではない。
25~30	呼吸低下、血圧降下、昏睡、反射能力喪失、麻痺、数時間後に死に至る。

12. 環境影響情報

生態毒性

:製品データなし

イノール: 魚類 マスの幼魚 24hr LC<sub>50</sub> 11.2g/L  
 コイの一種 96hr LC<sub>50</sub> 18~13.4g/L  
 クリ-クマヤブ 24hr LC<sub>50</sub> 7g/L  
 ケツビ 7day LC<sub>50</sub> 11g/L

残留性・分解性

:製品データなし

イノール: 理論酸素要求量 (ThOD) 2.10

	BOD5 理論酸素要求量の 44~80%
	COD 理論酸素要求量の 90~100%
	N <sup>+</sup> 硝化能の抑制 4, 100mg/L でニトロゲン種のアンモニア酸化の 50%抑制
生体蓄積性	:現在のところ有用な情報はない
土壤中の移動性	:現在のところ有用な情報はない
水生環境有害性(急性)	:方式3:加算法 (毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3が濃度限界(25%)未満のため、区分外に該当。 毒性未知成分を含有しているため、区分外から分類できないに変更。 方式1=データなし、方式2=データなし、方式3=分類できないより分類できないに該当。
水生環境有害性(長期間)	:方式3:加算法 (毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3が濃度限界(25%)未満のため、区分外に該当。 毒性未知成分を含有しているため、区分外から分類できないに変更。 方式1=データなし、方式2=データなし、方式3=分類できないより分類できないに該当。
オゾン層への有害性	:モントリオール議定書に規制されている物質を含まない。
その他	:漏洩、廃棄等の際は環境に影響を与える恐れがあるので注意すること。 二酸化炭素は空気の主成分の1つであり、動植物にとって不可欠なガスであるが、地球温暖化の主因物質の一つと言われ、様々な削減手段が国の内外で検討されている。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物・汚染容器及び包装

廃棄をする場合には、ガスを完全に抜いた後に行う。

許可を受けた産業廃棄物処理業者と受託契約をして処理すること。

中身が出なくなるまで使い切った後でも破裂する恐れがあるのでそのまま火中に投じないこと。

関連法規制並びに地方自治体等の基準に従って適切な処分を行う。

14. 輸送上の注意

・「7. 取扱い及び保管上の注意」の項を参照のこと

輸送の特定の安全対策及び条件 :運搬に際しては容器を 40℃以下に保ち、転倒、落下並びに損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

国内規制

陸上輸送 :消防法ほか法令の輸送について定めるところに従う。

海上輸送 :船舶安全法に定めるところに従う。

海上汚染物質 :該当しない

航空輸送 :航空法に定めるところに従う。

緊急時応急措置指針(容器 :126

イエローカード) 番号

国際規制

陸上輸送(ADR/R10の規定に従う)

国連番号 :1950

品名 :エアゾール

国連分類 :2

容器等級 :一

海上輸送(IMOの規定に従う)

国連番号 :1950

品名 :エアゾール

国連分類 :2

容器等級	: 一
海洋汚染物質	: 該当しない
IBCコード	: 該当しない
航空輸送 (ICAO / IATA の規定に従う)	
国連番号	: 1950
品名	: エアゾール
国連分類	: 2
容器等級	: 一

## 15. 適用法令

化学物質審査規制法	優先評価化学物質 (該当しない)
労働安全衛生法	危険物・引火性のもの 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (該当しない) 名称等を表示すべき危険物及び有害物 平成 28 年 6 月 1 日施行 (イナール) 名称等を通知すべき危険物及び有害物 (イナール) 有機溶剤中毒予防規則: 該当しない 酸素欠乏症防止規則、事務所衛生基準規則 (二酸化炭素)
船舶安全法	高压ガス
航空法	高压ガス
高压ガス保安法	適用除外 (液化ガス・可燃性ガス・圧縮ガス) 但し、政令告示並びに高压ガス保安一般規則規定に従う。
消防法	第四類アルコール類
大気汚染防止法	該当しない
海洋汚染防止法	Z 類: イナール
毒物及び劇物取締法	該当しない
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法)	該当しない
地球温暖化対策の推進に係わる法律	温室効果ガス (二酸化炭素)

## 16. その他の情報

本 SDS は JIS Z7253 : 2012 に従って作成している  
又、JIS Z7252:2014 に従って GHS 分類を実施した。

## 参考文献

原液 SDS  
各種原料 SDS  
液化石油ガス SDS  
化学物質管理促進法対象物質全データ  
労働安全衛生法対象物質全データ  
毒物及び劇物取締法対象物質全データ (化学工業日報社)

## 記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査したわけではないため、情報漏れがあるかもしれません。また新しい知見の発表や従来の説の改訂により内容に変更が生じることがあります。ここに記載された情報は情報の完全さ・正確さを保証するものではありません。全ての化学品には未知の有害性があるため、取り扱いには細心の注意が必要です。本品の適正に関する決定は使用者の責任において行って下さい。